希望を感じられる世の中に
NPO法人 ちゅらゆい

2019年度事業　「子ども支援団体の組織基盤強化」
（草の根活動支援事業）
実施期間：2020年4月～2023年3月
事業対象地域：全国

実行団体　事後評価報告書

沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい

資金分配団体

Public Resource PRF
公益財団法人
パブリックリソース財団

2023年2月

舞い上がれ
社会を変える
みんなの力
休眠預金を活用した事業です

団体概要

希望を感じられる世の中に
NPO法人 ちゅらゆい

- ミッション：
孤立ゼロからお互い様社会の実現へ
- 活動開始年：2010
- 所在地：沖縄県那覇市牧志
- 主な事業：こども若者支援（居場所づくり、就労）
- 直近の経常収入と主な財源：110,044,082円
  行政受託事業、B型就労支援事業
- 有給専従・非専従スタッフ数：28

希望を感じられる世の中に
NPO法人 ちゅらゆい

事業名
経済的理由で排除されないこども若者支援体制づくり事業

最終受益者
不登校や引きこもり、生活困窮など孤立リスクの高い子ども・若者たち

課題

現場の現状維持に追われて事業継続や組織の中長期的な視点での事業計画や戦略を検討するためのマンパワーや資金が不足し、事業の継続性が安定していない。

事業の概要

経営資源バランス（ヒト・モノ・カネ・情報）を整え、事業を継続するための基盤を強化する

中長期アウトカム
2023年度以降の自走状態を達成するための広報力がつき、ファンドレイズができている。

子ども若者支援に携わる人材を育成し、時代と子どものニーズに即した、質の高い居場所がある

子ども若者問題に対し、様々なステークホルダーがともに解決に向けて取り組んでいる

短期アウトカム：新規事業の開発、
活動の価値を伝える漫画本製作
学びあう人材育成の環境づくり

活動
新規事業開発：外部有識者との経営企画会議の設置、先進事例視察
漫画本製作：ノウハウ本製作検討チーム発足、漫画本クラウドファンディング、製作
人材育成：組織体制の整理、役割や目的に応じた研修や会議体の整理、チーム制の導入

コンサルタント、伴走支援

パブリックリソース財団：研修やミーティングのファシリテーション

※調査概要①

- 調査目的：組織の変化を把握する
- 調査方法：PRF診断シートによるアンケート調査
- 調査実施時期：2022年11月1月
- 調査対象者：組織のマネジメント層１８名
- 分析方法：事前評価時の調査結果との差異に着目し、その要因等について分析した

※調査概要②

- 調査目的：事業の効果について団体内で評価する
- 調査方法：振り返り検討会
- 調査実施時期：2022年12月
- 調査対象者：経営企画会議参加者、職員
- 分析方法：成果と積み残した課題、副産物として得られた効果について整理する場を2回に分けて行った。

事後評価の実施体制

希望を感じられる世の中に
NPO法人 ちゅらゆい

評価担当役割		氏名	団体・役職
内部	組織内部の評価	屋部千明	NPO法人ちゅらゆい事務局
外部	診断シートによる評価		PR財団
外部	経営企画会議	小阪・山川・相浦	経営企画会議（ちゅらゆい外部有識者会議）

事業の実績：インプット

- 人材　組織基盤強化事業担当者配置１名
  外部有識者　６名
- 経費（助成金額：円）
  - 契約当初の計画金額： 1,422,000円
  - 実際に投入した金額：1,442,000円
- 自己資金（円）
  - 契約当初の自己資金の計画金額
  - 実際に投入した自己資金の金額と種類
  - 資金調達で工夫した点
    →検討会が持たれた漫画本については
    原稿の製作が本事業でできたことで印刷費を
    クラウドファンディングにて造成することに挑戦し
    目標を達成した。

活動とアウトプットの実績

希望を感じられる世の中に
NPO法人 ちゅらゆい

活動	アウトプット
ノウハウや活動の価値を伝える漫画本の製作 （検討チームを発足し、漫画本の製作に取り組んだ）	漫画本 「居場所をください」
法人体制の整備、検討	事務局設置 理事会の再編成
予実管理・会計報告の仕組みづくり	毎月の会計報告 予実管理シート
規定・キャリアパスの整備	必要な規定類の更新 キャリアパス完成 グッドガバナンス認証取得への取り組み
新規事業の開発	自主事業開始のための新拠点設置

希望を感じられる世の中に
NPO法人 ちゅらゆい

アウトカムの分析

短期アウトカム①

２０２３年以降kukuluとカラフル田場が持続的な運営ができるようになり、障がいを持つ子、持たない子、貧困にある子ども、そうでない子の区別なく、居場所を必要とする子どもたちが、自分らしくいられる場になる。

達成度

・からふる田場は利用予定だった建物の建築基準を理由に自主事業開始には至らなかったが、市委託事業として存続放課後等デイサービス事業の申請準備については完了している。
・那覇kukuluは、放課後等デイサービス、就労支援などの制度事業開始に向けて、拠点、人材の確保を助成金等を活用して行い、次年度開始予定。

・課題
制度事業開始に向けて着手できたが、社会情勢の変化に応じた事業デザインについて検討を続ける必要あり。

短期アウトカム②

子ども若者の社会孤立を身近なこととして認識し、その根本原因や支援の必要性、それぞれ何ができるかを考える大人・子どもが増える

達成度

・どのような表現方法で行うかの検討がなされ、若者の声を丁寧にヒアリングした漫画本の製作が決定。
出版を５月に予定している。
製作費確保のためのクラウドファンディングにも取り組み、新たな支援者層を獲得した。

その要因や今後の課題など

・製作した漫画本を活用し、新たなステークホルダー獲得や必要とする子ども若者に届ける方法について検討が必要。

短期アウトカム③

職員のQOWとQOLが向上している。

- 達成度

残業対策や在宅勤務体制、各種休暇の消化について事業開始時と比較して、ルールや規定、管理システム、決裁の仕組みなどが整備された。
チーム制での研修の取り組みや組織の存在価値やあり方について検討する機会が増え、他事業所のスタッフとの価値観を共有することができた。
組織全体の中での自分や担当部署を意識する機会が増え、中長期的な視点で自らのキャリアや事業、受益者を捉える土壌ができた。

- 今後の課題など

整備した規定類、キャリアパスなどの運用や定着、見直しに取り組める体制づくりについて検討する必要がある。特にキャリアパスについては、評価の仕組みの完成や実行には至らなかったため、次年度の優先的課題として着手予定。

短期アウトカム④

組織の中長期計画をスタッフ参加で策定するための土壌ができる

達成度

チーム制での研修の取り組みや組織の存在価値やあり方について検討する機会が増え、他事業所のスタッフとの価値観を共有することができた。

組織全体の中での自分や担当部署を意識する機会が増え、中長期的な視点で自らのキャリアや事業、受益者を捉える土壌ができた。

今後の課題など

土壌づくりは出来たが、実際に具体的な検討を進めて完成に至るまでのプロセスを次年度１年間をかけて実行予定。
実際の計画策定について、理事会や会員との接続などには課題が残る。

希望を感じられる世の中に
NPO法人 ちゅらゆい

アウトカム達成度についての評価

組織の価値やあり方を捉えなおしたり、持続可能な体制について検討するというのが、一見バラバラに見える３つの活動共通の課題であり、それぞれのアウトカムとして評価できる部分となった。
それぞれの活動の成果物を活用していく土壌が出来た点においては、全体の達成度は高いと考えている。

波及効果

希望を感じられる世の中に
NPO法人 ちゅらゆい

組織内で起きた波及効果
（当初想定していなかった効果など）

・中長期計画の素案

・規程・定款の整備

・グッドガバナンス認証の取り組み

・事務局、総務機能の捉えなおし、強化

・理事会の再編成

・事業計画、事業報告のフォーマット化

他の団体への波及効果（今後期待できるものもふくめて）

・共に社会課題に取り組むチームとして、異業種での検討の場が多くもたれ、
　ちゅらゆいの取り組む社会課題が協力頂いた団体の取り組みにも繋がった。

事業の効率性

希望を感じられる世の中に
NPO法人 ちゅらゆい

専任者の新規採用
実働する担当者が置かれ、現場に属さず取り組むことで日々受益者である子ども若者に対峙する現場と兼任していると後回しになってしまうような組織環境の整備が急速に進んだ。規定類や予実管理などの基盤が整ったことで、現場と兼任しながらそうした業務を行う環境をつくることができた。

外部有識者との会議体設置
組織内部だけでは得られない客観的な視点を常に得ながら進めることができた。

担当者・伴走者が３年間変わらずに取り組みを続けられたことで、組織体制を変化させながらも事業を遂行することができた。
組織基盤にフォーカスして事業を進める上で、第３者の視点で様々な場面でのファシリテーションがあることで、変化していく過程でおこる組織内での混乱を整理しながら進めることが出来た。

成功要因・課題

３つの柱を置いたこと

３つのポイントにおいて活動を進め、内容としては多岐にわたる形となったが結果としては全てが組織の土壌づくりや価値の再認識がそれぞれの取り組みで行われた。

専任者の設置

実働するための人材を担当者として採用し、既存の現場にも属さない形を維持できたことで現場と兼任すると後手に回りがちなところをマンパワーとしてきちんと埋めることができ、規定や体制の整備において有効だった。

今後の課題

本事業の成果物として、組織化や規定整備、資源となりうる出版物などが得られたが今後これらを社内で運用し、活用していく体制づくりにおいてはさらなる検討とブラッシュアップが必要。

結論

達成度の自己評価

希望を感じられる世の中に
NCGSA ちゅらゆい

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
（1）事業実施プロセス				○	
（2）事業成果の達成度					○

※当てはまるところに動かしてください

希望を感じられる世の中に
NPO法人 ちゅらゆい

結論

設定した課題、ニーズ、担当者の選出など、事業の設計や実施状況については適切であり、結果として想定以上の副産物が得られている。

達成状況について、課題として残る点はあったが、３年間の取り組みで得られた成果として、今後それらを検討し改善していく土壌と基盤が団体の内外でつくられたことが最も大きい。

今後の持続・発展に向けて

希望を感じられる世の中に
NPO法人 ちゅらゆい

新規事業の開発

・制度や資金造成の方法についての検討がなされたことで、事業内容や現状で行っていることとの連続性と進化する部分の検討段階に入ることが出来た。社会情勢の変化も踏まえ、今後検討の場を構成を変えて継続する。

暗黙知の明文化

・漫画本を資源として内外で活用し、「居場所がない」ことを個人ではなく社会の問題として捉えて共に解決に取り組む仲間を増やしていく

人材育成

・社内で学び合う環境づくりは、今年度の活動を振り返って再構成し継続する。

知見・教訓

希望を感じられる世の中に
NPO法人 ちゅらゆい

・取り組みの担当者となる専任を配置する。
・第３者の視点を定期的に取り入れる
・専任以外に現場との接続担当者を配置する。
・基盤強化の取り組みは現場スタッフには見えにくい活動も多いため、団体内部との共有の機会を定期化する。
・取り組みが終了した後を想定して仕組みづくりを行う。

ロジックモデル（ver.3）～経済的理由で排除されない子ども・若者支援体制づくり事業

現状：財源の多くを委託事業に頼っており、委託終了後の事業継続のための施策が必要

投入資源

<ヒト>
スタッフ2名

<モノ>
無し

<お金>
助成金
＋
自己資金

PRFの伴走支援

活動

経営資源バランス（ヒト・モノ・カネ・情報）を整え、事業を継続するための基盤を強化する

- 新規事業の開発
- 暗黙知の明文化
- 人材育成
  ①支援員の育成
  ②リーダーの育成
  ③人事

アウトプット（結果）

※事業期間中に達成することを目指す　<中間目標>

- 「子どもの居場所」の継続について協議する場を設ける
- 既存の支援ノウハウや成果等を明文化する
- 支援員のスキルアップ研修
- リーダー層の育成研修
- キャリアパスの指標を定め、社内規定をつくる

短期アウトカム（成果）

※事業終了時までに達成することを目指す事業目標

- 委託事業に依存しない、新しい事業計画ができている
- 子どもの居場所への認知が広まり、協力者が増えている
- 資源化し、広報・活用されている
- 働きやすい職場環境になっている
- 「教える」から「学び合う」人材育成へ
- 若い職員が活躍し、次のステップに向かえる

中期アウトカム（成果）

※最終的に目指す社会課題を解決した状態

- 2023年度以降の自走状態を達成するためのファンドレイズができている
- 子ども若者支援に携わる人材を育成し、時代と子どものニーズに即した、質の高い居場所がある
- 子ども若者問題に対し、様々なステークホルダーがともに解決に向けて取り組んでいる

ビジョン

すべての子ども・若者が社会的に孤立することなく、安心して暮らし、自分の将来に希望のもてる社会の発展に寄与する